

卷末書籍広告の板木改変の一事例

— 芸艸堂所蔵「尾陽東壁堂製本畧目録」板木二種 —

松田 泰代

はじめに

芸艸堂所蔵「尾陽東壁堂製本畧目録」板木調査を平成二十四年におこなった。その結果報告とともに、そこからの分析および考察を展開する。

板木の研究は、鈴木俊幸編『近世後期における書物・草紙等の出版・流通・享受についての研究』⁽¹⁾や元興寺文化財研究所による大和を中心とする寺院所蔵の板木を調査した数々の報告書⁽²⁾、高野版板木調査委員会による高野版の板木調査など、各地でさまざまな調査研究がなされている。中でも、永井一彰による研究成果⁽³⁾および奈良大学の板木コレクションは特筆すべきものがあり、板木か

ら得られる情報と版本から得られる情報をつなぎあわせて考察する手法を構築された。永井に続き、金子貴昭の『近世出版の板木研究』⁽⁴⁾、立命館大学赤間亮と奈良大学永井による共同研究である板木資料デジタルアーカイブの構築など、数々の研究や成果が公表されている。

一方、名古屋の書肆永楽屋東四郎の研究は、北齋から焦点をあてた永田生慈の研究⁽⁵⁾、名古屋の商業出版に焦点をあてた岸雅裕の研究⁽⁶⁾がある。また、永楽屋の画譜関係の出版広告七種十四類を分析したマティ・フォラーの『Ei-fakuya Toshiro, publisher at Nagoya: a contribution to the history of publishing in 19th century Japan』⁽⁷⁾がある。永楽屋の出版広告がその他、三十四種掲載されているが、「尾陽東壁堂製本畧目録」は報告され

ておらず、板木からみた出版広告の分析事例も意味があると考え、今回の調査結果を報告する。

1 芸艸堂について

芸艸堂は、京都寺町通二条と東京湯島に店を持ち、木版摺の和本をはじめ、美術書を専門とする出版社である。創業は明治二十四年（一八九二）、当時の多色刷り美術工芸分野におけるデザイン本の需要の高まり、特に京都での染織・陶芸・漆芸のデザイン・図案の需要に応じた出版活動を展開している。⁽⁸⁾

現代では画家、芸術家として高く評価されているが、当時は図案家としての側面から、浅井忠（あさい ちゅう、一八五六―一九〇七）、神坂雪佳（かみさか せつか、一八六六―一九四二）、古谷紅麟（ふるや こうりん、一八七五―一九一〇）、下村玉廣（しもむら ぎよくこう、一八七八―一九二六）、津田青楓（つだ せいふう、一八八〇―一九七八）、河原崎奨堂（かわらさき しょうどう、一八九九―一九七三）などの作品を採り上げ出版している。また、近代以前の尾形光琳（おがた こうりん、一六

五八―一七一六）をはじめとする琳派の作品、とりわけ中村芳中（なかむら ほうちゅう、生年末―一八一九）、そして伊藤若冲（いとう じゃくちゅう、一七一六―一八〇〇）、長谷川契華（はせがわ けいか）などの図案を出版している。

一方、明治後期に、美術書を取り扱っている、多色木版摺を手がけているという特性を活かして、絵を中心とする書籍の板木求板活動⁽⁹⁾を精力的におこなったと考えられる。その結果、現在も『北齋漫画』をはじめとする一連の北齋ものや鍬形蕙齋（くわがた けいさい）北尾政美（きたお まさよし）、一七六四―一八二四）の『略画式』などの板木を所蔵している。⁽¹⁰⁾

現代でもそれらの板木を使って、出版がおこなわれており、昭和六十二年から平成九年にかけて出版された『江戸木版本集成』全五巻には十二タイトル十五冊⁽¹¹⁾が収録され、平成二十年に限定百五十部摺立で『北齋漫画』全十五冊が出版されている。「板木は京都の板木蔵で所蔵しているが、出版する時は東京に板木を送り東京で摺っている」⁽¹²⁾とのことである。

2 東壁堂永楽屋東四郎の出版活動

名古屋の書肆である永楽屋東四郎は、安永期（一七七二―一七八〇）に初代片野直郷が名古屋風月堂から別家し、独立した書肆と言われている。七代目東四郎（善治）によると安永五年（一七七六）創業⁽¹³⁾である。一方で、岸雅裕は現存する出版物から「名実ともに出版書肆としてのスタートは、この安永九年にはじまる」⁽¹⁴⁾としている。そして、昭和二十六年（一九五二）に廃業⁽¹⁵⁾した。

創業期は、尾張藩の学問振興政策に乗じて、発展していく。出版物の主な傾向は、藩校である明倫堂の学者による著作物、そしてもうひとつは本居宣長の著作物であろう。岸は寛政期（一七八九―一八〇〇）に出版が軌道に乗るとし、これらの傾向を指摘⁽¹⁶⁾している。経営に関して注目すべき事項として、寛政三年（一七九二）頃からはじまった葛屋重三郎との提携⁽¹⁷⁾があげられる。江戸への販路拡大によりあたらしい需要を獲得した。もうひとつは、寛政六年（一七九四）に尾州の書林仲間の結成が公認⁽¹⁸⁾されたことである。京都・大坂・江戸の三都の出版機構で

ある書林仲間、本屋仲間、書物問屋仲間からの独立は、三都に縛られない名古屋での出版を可能にした。その反動として、三都の書林仲間は結束し尾州出版物を重板・類板として三都での売り止めといった対抗処置⁽¹⁹⁾をとる。その解決策として三都の書肆を共同出版者にする事で回避し、販路を確保した。三都の圧力を回避する交渉の経験およびその手法の蓄積は、その後の経営に活かされたと考える。

二代目東四郎（善長）は、学問書の出版だけではなく、娯楽書の出版もおこなう⁽²⁰⁾。出版分野の拡大は、購買層の拡大につながり、ますますの発展をとげる。江戸進出をすすめる、出店をだす。二代目の没する前後ではあるが、江戸三組書物問屋仲間への加入を果たし、江戸での活動を本格化させる⁽²¹⁾。

文政五年（一八二二）秋時点での『東壁堂蔵版目録全』⁽²²⁾の写しが残っているが、四百三十七点（ただし、紙質の区別や巻数・部編名の違いも含んでいる）の書目を掲載するほど発展をなしとげている。

3 芸艸堂所蔵「尾陽東壁堂製本畧目録」

の板木二種

芸艸堂が所蔵している東壁堂の書目の板木を調査したところ、二種類の「尾陽東壁堂製本畧目録」（拙論末図版参照）が見つかった。書籍の巻末に付される書籍広告で、書籍の書名と冊数の記載を中心とする書目である。書籍広告は、三段で構成され、書目部分の行の幅は定形で半丁あたり十二行が割り付けられている。枚数は各々六枚、二丁張、版面にして、五丁半である。この二種類の書籍広告は、彫られている書名に若干の違いがみられるが、入木（埋木）による修正などがなされながらも、ほぼ同じ内容が維持されていた。そして、それぞれの板木および版面の匡郭の寸法を測定（表1参照）したところ、販売する本の大きさにより、二種類の書籍広告が使い分けられていたと考えられる。半丁分の版面しかない6丁を除くと、一つは、匡郭の大きさが平均縦十九・七五×横三十糎、もう一つは、平均縦十八・一五×横二六・五二糎となり、前者は大本用、後者は半紙本用と考えられる。

表1 芸艸堂所蔵「尾陽東壁堂製本畧目録」板木一覧 大きさ(縦×横 単位:cm)

丁付	大本用			半紙用		
	『北齋臨畫』丁付	板木大きさ	匡郭(内隔)	『北齋臨畫』丁付	板木大きさ	匡郭(内隔)
1T	26T	21.2×31.8	19.7×30.0	19T	21.2×31.5	18.2×26.6
2T	23T	20.8×32.0	19.8×30.0	27T	21.0×31.8	18.1×26.5
3T	3T	21.4×31.0	19.8×30.0	29T	20.4×32.0	18.1×26.5
4T	20T	20.2×32.0	19.8×29.9	28T	21.2×31.8	18.2×26.4
5T	18T	21.2×31.0	19.7×30.1	8T	20.6×31.8	18.1×26.6
6T	4T	21.2×32.2	19.7×14.5	21T	20.7×31.8	18.2×12.8

同じ内容の書籍広告をわざわざ書籍の大きさにあわせて板木を用意していたことがわかる重要な証拠である。

板木の裏面は、二種類とも『北齋臨畫』の主版（墨版・骨板）（表1参照）であった。色版は板木の経年変化により、反つたり縮んだりするので重ね刷りをした時に色がずれること、作製に手間がかからないことなどの理由から板木の再利用にまわされることが多いが、主版は彫るのに費用がかかるため比較的大事に保存されるのが一般的のことである。『北齋臨畫』の裏面にこの書籍広告が彫られているおかげで、板木が再利用されることなく、現在に残つたと推測される。

二種類の書籍広告に彫られている内容の若干の違いは、次の五点である。

- ・半紙用には題字欄下部に「上紙摺薄用摺／御好次第出来仕候」とある。
- ・三丁表の下端五行目に、大本用では部類立て名称である「天文曆學之部」があるが、半紙本では削られて空行になっている。

- ・三丁表の下端十一行目に、大本用では「晴雨考 年々出板 一」があるが、半紙本では削られて空行になっている。

- ・四丁表の中段四行目から六行目にかけて、大本用では書名の並びは『定家朗詠』『行成朗詠』『琴曲桃の宴』であるのに対して、半紙本用では『消息案文』『定家朗詠』『行成朗詠』で、『琴曲桃の宴』の有無と『消息案文』の有無、二点の違いがある。

板木を観察すると、修正や改変のあとが窺える。板木から得られた情報は表2にまとめた。誤植のための修正は一箇所あり、その他は書名の差し替えに起因する入木

であった。入木がとれてしまった部分もあった。

一丁表三行目『曆(歴)朝詔(詔)詞解』の「詔」の部分に修正(図1)されている。もともとは「録」の文字が彫られていた。ただ残念なことに書名としては『歴朝詔詞解』という標記が一般的である。

入木されている事例として、ブロックで書名を入れ替えた例、元の文字を残しつつ入木した例、一行分の枠ご



図1 一丁表上段3行目

と差し替えた例を取り上げる。

ブロックごと一度に入木がなされた場合、木の質の違い

表2 芸艸堂所蔵

「尾陽東壁堂製本畧目録」版木翻刻

注記 板木には「同」と彫られていても、
翻刻にあたっては、書誌の単位となる場合
は単語を補い傍線を引いた。

芸艸堂所蔵

大本用

凡例 入木(埋木)等
の痕跡と考えられる部
分

赤字

尾陽東壁堂製本畧目録

和書之部	尾陽東壁製	三十	伊勢物語	二
古事記傳	六甲集道類	六	玉體問	十五
第一巻(一節)一節編	後撰集抄	十八	つれづれ集	一
神代正法	源氏集抄	一	ますみの巻	二
神皇正統	新古今集抄	五	江戸商人歌合	二
正統書	奥書の要旨	五	御遺書要旨	一
奥書の註釋	奥書の要旨抄	三	八日の日記	一
夏正	夏正の要旨	九	地名考古附州郡	一
三才考	説小治政手紙	一	天文和歌附抄	一
説小治政	三才談類稿	六	花のしがらみ	一

和書之部	尾陽東壁製	四十七	別巻道類	四
古事記傳	六甲集道類	十	後撰集抄	一
第一巻(一節)一節編	後撰集抄	十	つれづれ集	一
神代正法	源氏集抄	一	ますみの巻	二
神皇正統	新古今集抄	五	江戸商人歌合	二
正統書	奥書の要旨	五	御遺書要旨	一
奥書の註釋	奥書の要旨抄	三	八日の日記	一
夏正	夏正の要旨	九	地名考古附州郡	一
三才考	説小治政手紙	一	天文和歌附抄	一
説小治政	三才談類稿	六	花のしがらみ	一
和書之部	尾陽東壁製	四十七	別巻道類	四
古事記傳	六甲集道類	十	後撰集抄	一
第一巻(一節)一節編	後撰集抄	十八	つれづれ集	一
神代正法	源氏集抄	一	ますみの巻	二
神皇正統	新古今集抄	五	江戸商人歌合	二
正統書	奥書の要旨	五	御遺書要旨	一
奥書の註釋	奥書の要旨抄	三	八日の日記	一
夏正	夏正の要旨	九	地名考古附州郡	一
三才考	説小治政手紙	一	天文和歌附抄	一
説小治政	三才談類稿	六	花のしがらみ	一



図2-2 芸艸堂所蔵『日本名山圖會』の板木の差替-左半丁分

上段 板木を側面から見た写真 普通の入木の場合は、直角に木を形成して埋め込まれるが、この半丁分の差替事例では、両端が鋭角に形成され差し込まれている。

下段 「文化元年九月刻成文晁識」とある谷文晁の序文部分 右半丁に「金峰山」の見開き右部分があるため、左半丁ごと取り替えたと考えられる。



図2-1 二丁裏中段3-9行目および下段

いによって色が異なり一目瞭然で違いがわかる場合がある。図2-1の場合、二段目の中七行分と下段全部が差し替えられた部分である。今回の調査対象ではないが、時には半丁分の版面ごと差し替えられる事例(図2-2)もある。後述の6章2節『名山圖譜』と『日本名山圖會』で詳しく紹介したい。



図2-3 芸艸堂所蔵『日本名山圖會』より
折丁を広げたところ



図5-1 大本用五丁表中段1行目



図4 四丁表中段11行目



図3 一丁表上段3行目 入木後
一文字削った跡も

元の文字を残しつつ入木した例として、三丁表上段十一行の部分を図3としてしめす。前の行『宋板傷寒論』に対して、「傷寒論」を指し「同」と彫られている部分を残し「正文」の文字を入れた例である。書名は『傷寒論正文解』が本来の書名ではないかと推測している。

一行分の枠ごと入木をした例としては、四丁表の中段十一行目『永樂大雜書 一』の事



図5-2 半紙本用五丁表中段1行目

例（図4）が挙げられる。直前は空行だった部分に入木がなされ文字が彫られたのである。一行前の十行目は、『家俗説弁 三』であったが、『煎茶早指南』に改められ、くわえて冊数も「三」から「一」に改め、二度に渡って作業が進んだように推測する。

最後に、入木がこぼれ落ちた事例を見てみる。図5-1は大本用の板木、図5-2は半紙用の板木である。五丁表中段一行目は、四丁裏中段から続く内容で構成されている。入木がなされる前は『浮世画譜二編』の上紙仕立てという意味で『同上紙』と表現されていた。「同」の文字は残し、「五編」を彫り『神事行燈五編』という意味を表した。ところが、大本用は板木の左端だったために入木部分が欠落してしまったと考えられる。それに対して、半紙本用は欠落していない。

今回の調査対象ではないが、使われなくなった板木の中央部でも、入木が欠落している事例(図5-13)もある。須原屋茂兵衛所蔵の板木が流れて、明治後期に大阪の文榮堂から京都の芸艸堂に渡った『日本名山圖會』の板木の中に『袖珍武鑑』あるいは『袖武鑑』と考えられる半紙横長本の版面があり、入木の欠落がみられる。

「尾陽東壁堂製本畧目録」大本用の板木を観察すると、



図5-3 芸艸堂所蔵『日本名山圖會』の板木の一枚 武鑑の摩耗した板木の裏面に『日本名山圖會』(文化九年版)の見返し部分が彫られた。

行数にして六十四箇所、冊数の部分を別に数えると六十九箇所の変更のあとが見られた。中には、入木したあと再度変更したのではないかと考えられる痕跡(図6)もあったが、それらはダブルカウントしていない。次の章では、これほどの数の修正がどのような順番でなされていったのか、全行程を復元することはできなかったが、変遷過程の一部分を復元してみる。



図6 三丁裏中段1-3行目
1-3行目を一括して書名の入替えを行い、後に再度2-3行目を差替えたように見える。

4 「尾陽東壁堂製本畧目録」の変遷について

「尾陽東壁堂製本畧目録」には、総計三百八十一の欄が用意されている。そして、部類立てがなされている。部類は「和書之部」「經書之部」「詩集之部」「誹書之部」「醫書之部」「佛書之部」「天文曆學之部」「手本之部」「正面摺之部」「石刻法帖之部」「繪本之部」「面譜繪手本之部」「算法之部」「字引節用之部」「將棊之部」「碁經之部」「百人首之部」と十七に分類されている。前述したが、半紙本用では「天文曆學之部」の部類立てが削除されている。文政五年（一八二二）秋の時点の『東壁堂藏版目録 全』では、二十七に分類されており、これらと比較してみても版面の改変の過程でいくつかの部類、たとえば「冢田物」「易書之部」「遊戯之部」「雜之部」などが削除されてしまった可能性が考えられる。

見方は、見開きで右から左へ、上段、中段、下段と視線を動かすように作られている。作り手の簡便さではなく利用者目線で一手間掛けた編集といえよう。

一つの枠は必ず書誌単位ごとに記載されているわけで

なく、部編名ごとに記載、あるいは書誌単位にはならない紙質による区別、すなわち「上紙」といった記載がなされている場合もある。

最終形である板木からその書誌の数をかぞえてみると、二百八十五タイトル、そのうち十五タイトルは重複して採用されていた。また、あきらかに分類がおかしい記載もあった。板木に残された情報量は、空欄が十二、書名で埋まっている枠が三百五十二、部類立ての枠が十七であった。

重複した書誌を分析（表3）してみると、最終丁である六丁表に記載されている書誌ばかりである。そして一丁から五丁で出現する場合は、部類立てと一致しておらず分類が乱れている部分である。

書籍に使用されたこの目録を収集した結果、大本用では五類、半紙用本では三類が集められた。そのうちの一类はこの六丁表が使われず、五丁と奥付で構成されている事例であった。永楽屋東四郎は、ある時点で六丁表が使えない事情が発生し、五丁分の目録として通用させるために、わざと無理な改変をしたと考える。

大本用を事例として、採取した事例をもとに変遷過程

を復元してみた。

- (1) 京都大学附属図書館所蔵『伊勢物語』
(請求記号 30-1-3)
 - (2) 佛敎大学図書館所蔵『古今和歌集』
(請求記号 G国書12224-119)
 - (3) 京都大学附属図書館所蔵『地名字音轉用例』
(請求記号 4-63-1-1)
 - (4) 国立国会図書館『煎茶早指南』
(請求記号 202-195)
 - (5) 佛敎大学図書館所蔵『古今集遠鏡』
(請求記号 G国書12224-152)
- (1) から(2) への変化をA、(2) から(3) への変化をB、(3) から(4) への変化をC、(4) から(5) への変化をDとすると次のようにまとめられる。ただし、書誌単位を基本としタイトル数をかぞえた。また、書誌単位になる場合にかぎり、版面では「同」とあつても書名の一部を補った。その場合は傍線を付与した。

・変化Aは書名中の一文字が訂正され、一つの書名が入れ替わった。

『曆朝録詞解』から『曆朝紹詞解』へ

『武家俗説弁』から『煎茶早指南』へ

・変化Bは、『神事行燈』二編から五編に増えたことから、『浮世画譜』との欄が入れ替わり、新しい書名が六タイトル、無くなった書名が六タイトルである。

『玉くしげ』から『つれづれ草』へ

『和歌五百題』から『花のしがらみ』へ

『俳諧百人一首』から『俳諧無名集』へ

空欄から『永樂大雜書』へ

『道中画譜』から『神事行燈』へ

『浮世画譜』から『同二編』へ

『同上紙』から『同三編』へ

『同二編』から『同四編』へ

『同上紙』から『同五編』へ

『神事行燈』から『浮世画譜』へ

『同二編』から『同二編』へ

『本朝筭鑑』から『早引相場帳』へ

『将某観手』から『将某楷梯』へ

「東都 書物問屋」が削除

・変化Cは部類立ての文字が削除された。

部類立て「冢田物」から空欄へ

・変化Dは、欄が変わった書名が十六タイトル、新しく加わった書名が八タイトル、無くなった書名が二十六タイトルである。

空欄から『大日本國郡全圖』へ

『冢註周易』から『大日本國郡全圖彩色摺箱入』へ

『冢註周易正文』から『美濃國全圖』へ

『冢註毛詩』から『三河國全圖』へ

『冢註毛詩正文』から『永樂古状揃』へ

『冢註六記』から『同上紙』へ

『冢註老子』から『永樂古状揃假名附』へ

『左傳増註』から『同上紙』へ

『孟子断』から『初學古状揃』へ

『昼錦行』から『同上紙』へ

『作詩質的』から『初學古状揃假名附』へ

『江尾往還蹤』から『同上紙』へ

『大峯文集』から『延壽養生談』へ

『滑川談』から『養生要論』へ

『随意録』から空欄へ

『四聲節用集』から『手紙早引集』へ

『同上紙』から『手紙早引集増補再板』へ

『將某定跡』から『將某自在』へ

『將某連珠』から『將某指南車』へ

『將某古今集』から『(空白)』へ

『將某相掛集』から『碁 奕範』へ

『將某指南車』から『碁 奕筌』へ

『將某百番』から『碁立手談』へ

部類立て「易書之部」から『松月堂百瓶』へ

『増補卜筮盲筮』から『秉穂録』へ

『増補卜筮盲筮文政再板』から『焼物出所』へ

『卜筮盲筮増續』から『彼此合府』へ

『卜筮大全』から『年中曆講譯』へ

『卜筮極秘』から『女今川貞操鑑』へ

『卜筮卦象解』から『婦女用文章』へ

よって、得られた事例の変化だけでも三十三タイトルが削除され、新たに十五タイトルがくわえられ、「東都書物問屋」が削除されたことがわかる。見落としもある

であろうが板木にある改変の跡は六十四箇所、対して今回の調査で三十七箇所、同じ欄が二度改変されていたので例もあつたので、三十六箇所の改変の実情を確認した。

『北斎漫画』の冊数が最初から十二冊であり、途中で改変された形跡もないことから、十二編に天保五年（一八三四）一月の序文があり、十三編に嘉永二年（一八四九）秋の序文があることより、この「尾陽東壁堂製本畧目録」は天保五年以降に成立したといえよう。

次に、初期は「東都／書物問屋」とあり、「尾州名古屋本町通七丁目 永樂屋東四郎」「江戸日本橋本銀町二丁目 同 出店」「濃州大垣本町 同 出店」と江戸と大垣の出店の住所が記載されている。岸雅裕は論文「尾藩書肆永樂屋東四郎の東都進出について」で、江戸三組書物問屋仲間への加入は文政三年（一八二〇）以降、天保十二年（一八四一）以前に限定でき、天保四年（一八三三）に至って初めて名古屋本店と江戸出店の両店を明示する奥付があらわれること、天保九年（一八三八）になると「東都書物問屋」と表記するものがであることを明らかにしている。またのちの論文「名古屋書肆永樂屋の研究補遺（二）」の中では、正式に江戸の書物問屋仲間の一員

として活動を始めたのは、天保四年（一八三三）ではないかとし、尾張名古屋の本店をも「東都書物問屋」としてしまふ表現を奥付とする時期は天保九年（一八三八）頃に限られていることを明らかにしている。よって、この「尾陽東壁堂製本畧目録」は天保九年頃に作成されたと考えられることもできる。

『神事行燈』は初編に文政十二年（一八二九）の序、四編に天保十三年（一八四二）の序、五編に弘化四年（一八四七）の序があることから、変化Bは弘化四年以降になされたと考えられる。「東都書物問屋」の削除は、作成された天保九年頃以降の変化Aと変化Bの間にあつたかもしれない改変、もしくは変化Bでなされたといえよう。

ちなみに明治五年（一八七二）の『名古屋縣管内蔵板箇所取調書』では、官許情報が明記されており、古い板木を求版した場合など記録がないものは「官許年月不詳」と記載されている。その官許情報をもとにこの目録に収録されている書籍を見ると、古い物は安永四年（一七七五）から新しい物は嘉永五年（一八五二）まで含まれており、創業時から網羅している。板木を資産として蓄え、また一部の板木は流出していたことがわかる。そして、こ

の目録の最後の改変は嘉永五年以降であると考えられる。

5 『北齋臨畫』について

『北齋臨畫』は、当初『傳神開手北齋臨畫 初編』という書名で永楽屋東四郎から出版された。⁽²³⁾ 初編と記載されていることから、当初の出版計画は続刊を二編、三編と刊行する予定だったことが窺えるが、現在のところ初編しか存在していない。後に『北齋臨畫』と改題され後刷りが出版された。明治になってからは、吉川半七（東京、吉川弘文館）によって明治十年（一八七七）に、明治四十五年（一九一三）二月十一日、平成元年（一九八九）九月九日と芸艸堂から同じ板木を使った木版印刷の後刷りが出版されていることが確認できる。

平成元年に印刷された芸艸堂の書籍では、墨、薄墨、肉色の三色が基本で、特に、次の部分はもう一色加わった四色で構成されている。二丁表の鶴と太陽に赤、十四丁裏の魚の縞模様は空色、二十九丁裏の福寿草に黄色が使われている。

明治以前に刷られた書籍奥付の刊記情報には、「江戸

和泉屋市兵衛／尾州名古屋 永楽屋東四郎」や「発行書肆 江戸日本橋通一丁目 須原屋茂兵衛／同日本橋通二丁目山城屋佐兵衛／同芝神明前 岡田屋嘉七／同日本橋通二丁目 須原屋新兵衛／同浅草茅町二丁目 須原屋伊八／同両国横山町三丁目 和泉屋金右衛門／大阪心齋橋通北久太郎町 河内屋喜兵衛／同心齋橋通安土町河内屋和助／同心齋橋通博勞町 河内屋茂兵衛／同心齋橋通安堂寺町秋田屋太右衛門／京都二条通衣之棚角 風月庄左衛門／同麩屋町通姉小路上ル 俵屋清兵衛／尾州名古屋本町通七丁目 永楽屋東四郎」などがあり、また封面や巻末の書籍広告に「尾陽東壁堂藏版画譜画手本目錄」や「東壁堂製本画譜目錄」が附いていることから、永楽屋東四郎が版元であったことが窺える。出版年の情報は書籍全体からは読み取れず、正確な刊行年は不明である。しかし、永田生慈はこの作品について、「北齋の作画とは認められず他の門人の絵手本をもとに再構成されたと考えられる⁽²⁵⁾」と述べ、そして『北雲漫画』と『伝神開手北齋画式 初編』から一部の絵を採用していることを明らかにした⁽²⁶⁾。ことによつて、『傳神開手北齋画式 初編』にある序文が文政元年（一八一八）であることから、『傳神

開手北齋臨畫 初編』は文政以降の刊行であると推測できよう。なお、欧州所在日本古書総合目録では、「天保弘化頃」刊」と推定されている。

現在、芸艸堂が所蔵している『北齋臨畫』の板木、主版（墨版・骨板）の三丁、四丁、八丁、十八丁、十九丁、二十丁、二十一丁、二十三丁、二十六丁、二十七丁、二十八丁、二十九丁の裏に二種類の「尾陽東壁堂製本畧目録」が彫られている（詳細は図版参照のこと）。

東壁堂、すなわち永楽屋東四郎の目録が彫られていることにより、現存するこの板木は永楽屋東四郎が過去に所蔵していたことが確認できる証拠となる。

6 板木の流れ

芸艸堂に集積している板木は、どのようなルートで流れてきたのであろうか。芸艸堂には『明治四十五年壬子第一月／蔵版仕入帳』と表紙に記載された台帳は現存しているが、それ以前の記録は不明であり、板木蔵には数万枚の板木があると思われるが正確な数はわからないと
のことである。

(1) 北齋もの

福島清剛は、論文「富嶽百景」初二編異版色板について²⁷⁾で、『北齋漫画』の板木が永楽屋東四郎から吉川半七、そして芸艸堂へ、『富嶽百景』の板木は、断定はできないが、西村屋祐蔵・与八から永楽屋東四郎、そして吉川半七、芸艸堂へ移動してきたと述べている。福島の調査によると、芸艸堂が発行した『北齋漫画』の奥付には「明治四十四年十二月二十二日求版、明治四十五年二月十一日印刷発行」とあるとのことである。

『北齋人物畫譜』『傳神開手一筆畫譜』『三體畫譜』『花鳥畫傳』『傳神開手北齋道中畫譜』『葛飾一為遺墨北齋新雛形』『繪本魁』『和漢の譽』『繪本庭訓往来』『傳心畫鏡』『傳神開手北齋画苑』『北齋臨畫』も、芸艸堂の「明治四十五年二月十一日印刷発行」という奥付が散見できる。これらの板木も吉川半七から一括して購入したといわれている。よって、永楽屋東四郎から吉川半七、そして芸艸堂へといった板木流通の一つのルートが確認できた。

(2) 『名山圖譜』と『日本名山圖會』

もう一つのルートとしては、大阪経由で芸艸堂に流れたルートがある。

齊藤里香および岩手県立博物館の『名山圖譜』（改題タイトル『日本名山圖會』）の出版史的研究の成果により、出版事情の解明および整理がなされた。⁽²⁸⁾



図版7 芸艸堂所蔵『日本名山圖會』の板木一枚
右 表紙見返頁の版面 左 題簽 匡郭がのちに削られている。裏の版面が山の図だったため残った。

『名山圖譜』は、川村寿庵が谷文晁に依頼して出版された山の画集であり、享和二年（一八〇二）夏に稿本が完成し、書肆西村宗七により割印手続きがなされ、文化元年（一八〇四）十二月に販売許可を受け、文化二年正月に出版された。上巻表紙見返に「松伯堂藏板」とあることから、版權は松伯堂こと

川村寿庵にあったと考えられている。

奥付に出版者名や出版日の記載のない献呈本と「文化二乙丑年正月／東都書鋪西村宋七發兌」とある販売本がある。そして、序文が変化している、「松伯堂藏板」とある表紙見返しは「ずされたもの、磐手山と玉東山の二図が追加された文化四年（一八〇七）増補版、文化九年（一八一二）に須原屋茂兵衛によって改題された『日本名山圖會』がある。これは再び板木が作成された復刻ではなく、見返や序文、題簽の部分だけ作り替え、本文は以前と同一の板木を使って再刊したものである。須原屋茂兵衛は、改題をして、割印の手続きをとり、販売許可を得、そして版權の所在をあきらかにした。少し穿った考え方をすれば、そこにはタイトルをかえるというリメイクで読者に対しては、新しい購買層を得る、話題性をつくる、そして同業者に対しては、版權の主張、版權管理台帳の機能としての割印帳の活用といった経営戦略を展開したといえよう。

その後、板木は大坂の秋田屋太右衛門へ流れ、二転三転して最終的には明治後期に大阪の文榮堂前川善兵衛から、板木一式と摺見本とする版本一冊（奥付に文榮堂藏

版とあり)が京都の芸艸堂へ転売された。芸艸堂では、昭和五十四年に再刊をおこなっている。

須原屋茂兵衛の作成した見返し of 板木が残っており、

「書肆 千鐘房主人誌」(須原屋茂兵衛の屋号)の部分は削除されている。些末な指摘をすると、岩手県立図書館蔵の『日本名山圖會』文化九年版は見返し部分「書肆

千鐘房」だけである。後に入木がなされた痕跡があり、「書肆 千鐘房主人誌」になり、最終的にこの部分が全部削られたと考えられる。

江戸から名古屋、そして名古屋から大坂、そして京都、あるいは名古屋から東京、そして京都といったダイナミックな板木の流動性について再確認した。

おわりに

活字印刷ではないということが、日本における出版の興隆につながる一つの要因と考える。刷り終わったら版面が崩され残らない活字印刷⁽²⁹⁾に対して、版面が板木に残り、板木に価値が生じたことにより版權という資産・商品としての版木という概念が形成され、商品として流通

し、資産として蓄積されることの意味は大きいと考える。そして、物体としての板木の流通が盛んにおこなえるようになった、すなわち日本が四方を海に囲まれており、物流が海運によって大量に輸送可能になったことは重要な要素だと考える。近世における海運業の発達、船の技術革新に着目して、書籍および板木の物流を考えることは今後の課題である。

江戸後期、奥付に共同で記載される書肆数が爆発的に増加する。従来は開版にかかる資金の供給、あるいは共同分担という側面にばかり着目されていた。しかし、その背景には、書籍の流通改革があったからこそ販売のネットワーク、機構や制度が確立し、安定した物流のもと共同販売が可能になったのではないだろうか。そして販売する商品に対していくばくかの資金を出資するという流れがでてくるのではないだろうか。「蔵板目録」から「製本目録」という単語への変化は、共同出資により板木の大半を一書肆が管理していたとしても版權は分散しているので、その本を企画・製作している書肆という意味で「製本所」といった単語が使われるようになったのではないかと考えている。

「尾陽東壁堂製本畧目録」の六丁表を排除し、五丁分に作り直した時期は、嘉永五年（一八五二）以降であるが、この時期に出版業界に一つの構造改革がおこったと考える。その伏線には物流すなわち海運業のなんらかの技術革新、インフラの整備があつたのではないかと推測している。これらのことは今後の研究課題である。

奥付の変化到来、奥付を単独あるいは少数の書肆名だけにすることができなくなった時代の到来、インフラ整備による書肆のグループ化にも着目していきたい。

【注】

- (1) 文部省科学研究費補助金総合研究(A)研究成果報告書、一九九六
 - (2) 元興寺文化財研究所編『(財)大和文化財保存会援助事業による當麻寺の版木』ほか、唐招提寺、薬師寺、寶山寺、西大寺、春日大社、桜井、世尊寺、金剛山寺などの調査報告が出版されている。
 - (3) 永井一彰「板木二題：厚さ・入木」『奈良大学総合研究所特別研究成果報告書』奈良大学総合研究所 二〇〇二
- 永井一彰『藤井文政堂板木売買文書』（日本書誌学大系九七）青裳堂書店 二〇〇七

- (4) 金子貴昭『近世出版の板木研究』法蔵館 二〇一三
- (5) 永田生慈『北斎漫画』の出版に関する考察『立正史学』八七 二〇〇〇 七一―八四頁
- (6) 岸雅裕「尾藩書肆永楽屋東四郎の東都進出について」『名古屋博物館研究紀要』七 一九八四 一一―二四頁
- 岸雅裕「尾州書林仲間の成立と三都―尾州書林の台頭」『文学』四九（一一）一九八一 一二五―一三六頁
- 岸雅裕「名古屋書肆永楽屋の研究 補遺(一)」『愛知文教大学論叢』一 一九九八 二二〇―二〇一頁
- 岸雅裕「名古屋書肆永楽屋の研究 補遺(二)」『愛知文教大学論叢』二 一九九九 二四六―二二三頁
- 岸雅裕『尾張の書林と出版』（日本書誌学大系八二）青裳堂書店 一九九九
- (7) Matthi Forrer, *Eirakuya Toshirō, publisher at Nagoya : a contribution to the history of publishing in 19th century Japan*, J. C. Gieben, 1985
- (8) 福島清剛「富嶽百景」初二編異版色板について『北斎研究』四十五卷 二十四―四十頁
- (9) 同掲「(前略)、弊社は明治末頃に盛んに江戸(東京)の版元から版木を購入しており(後略)」と述べている。
- (10) 前掲
- (11) 『江戸木版本集成』第一卷(昭和六十二年六月二十一日

- 発行)は『北齋人物畫譜』(昭和六十一年八月十日重版発行)、『傳神開手一筆畫譜』(昭和六十二年三月三日重版発行)、『三體畫譜』(昭和六十二年六月十五日重版発行)を収録し、同第二卷(平成九年九月二十三日発行)は『花鳥畫傳』初編・二編、『傳神開手北齋道中畫譜』を、同第三卷(平成九年九月二十三日発行)は『葛飾一為遺墨北齋新雛形』、『繪本魁』、『和漢の響』を、同第四卷(昭和六十三年十二月十五日発行)は『繪本庭訓往來』一―三卷を、同第五卷(平成元年九月九日発行)は『傳心畫鏡』、『傳神開手北齋画苑』、『北齋臨畫』を収録している。十五冊すべて奥付には、重版の発行日情報と共に「明治四十五年二月十一日初版発行」との芸艸堂からの最初の出版情報が記されている。
- (12) 芸艸堂での聞き取り調査
- (13) 前掲 岸雅裕 「尾藩書肆永楽屋東四郎の東都進出について」
- (14) 前掲 岸雅裕 「名古屋書肆永楽屋の研究 補遺(一)」
- (15) 太田正弘 『尾張出版文化史』六甲出版 平成七年
- (16) 前掲 岸雅裕 「名古屋書肆永楽屋の研究 補遺(一)」
- (17) 前掲 岸雅裕 「尾藩書肆永楽屋東四郎の東都進出について」、『尾張の書林と出版』
- (18) 前掲 岸雅裕 『尾張の書林と出版』

- (19) 同掲
- (20) 前掲 岸雅裕 「名古屋書肆永楽屋の研究 補遺(二)」
- (21) 同掲
- (22) 前掲 岸雅裕 『尾張の書林と出版』
藤井紫影 「百年前の書物の直段」 『書物趣味』二一四
一九三三―二二〇―二三三頁
- この論文の中で藤井乙男は「私が名古屋在勤中、手に入れた同家の蔵版定価録は九行罫紙三十枚から成り、東壁堂蔵版目録と表紙に記し、末に文政五年壬午秋改とあって、多数の書目と直段を掲げている」と紹介された。資料は現在不明で、岡田希雄によって昭和八年に書写された写本が国立国会図書館に所蔵されている。
- 岸はこの写本の翻刻『東壁堂蔵版目録 全』を最初『名古屋博物館研究紀要』八に掲載し、後に『尾張の書林と出版』に収録した。
- (23) 永田生慈 『江戸木版本集成』五巻別冊「作品解説」 芸艸堂 平成元年九月
- (24) 同掲
- (25) 同掲
- (26) 同掲
- (27) 前掲 福島清剛 『富嶽百景』初二編異版色板について
- (28) 岩手県立博物館 『『日本名山図会』と川村寿庵』 岩手県

文化振興事業団 平成二十年

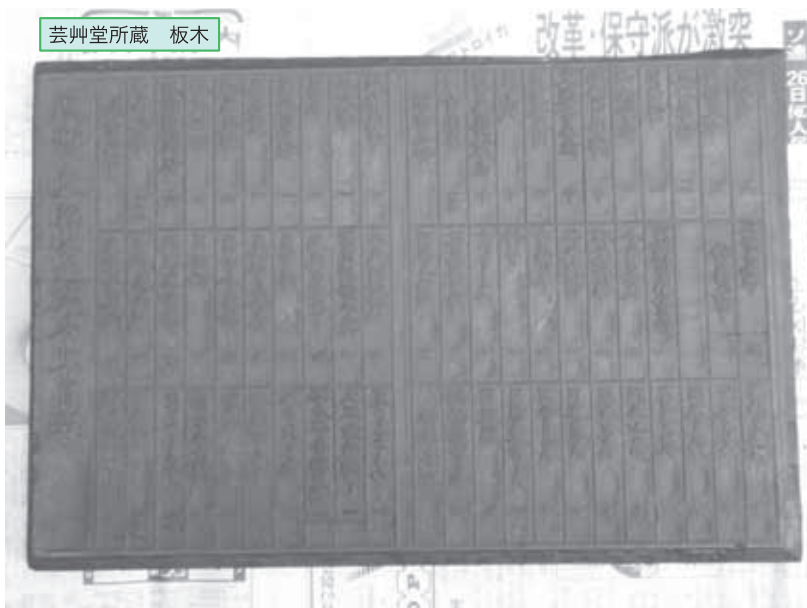
六章二節の事実の記述は、この研究成果によつて記載した。緻密な素晴らしい書誌学的研究の恩恵を頂いた。

(29) 活字印刷においても、後の時代になると紙型によるマスター原版の保存という技法がうまれる。

【付記】

板木の閲覧と写真掲載を許可してくださった美術書出版株式会社芸艸堂ならびに、聞き取り調査にご協力いただいた吉井幹雄氏・早光照子氏に厚くお礼申し上げます。また、両氏にはさまざまなご教示を賜り、特別に職人さんを手配して板木から摺物を準備していただくなど、大変お世話になりました。記して心よりの謝意をあらわすものである。

芸艸堂所蔵 板木



図版 一—一—一

『尾陽東壁堂製本客目録』板木「一丁 大本用」

芸艸堂所蔵 板木



図版 一—一—二

『尾陽東壁堂製本客目録』板木「一丁 半紙本用」

『北齋臨畫』板木「二十六丁」

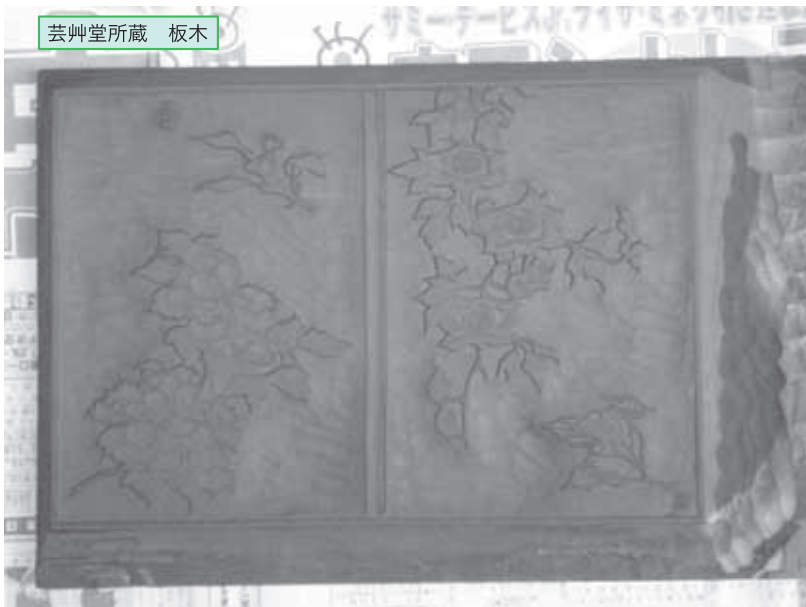
(『尾陽東壁堂製本畧目録』「一丁 大本用」)



芸艸堂所蔵 板木

『北齋臨畫』板木「十九丁」

(『尾陽東壁堂製本畧目録』「一丁半紙本用」)



芸艸堂所蔵 板木



芸艸堂所蔵 板木

図版 二—一—一

『尾陽東壁堂製本客目録』板木「二丁 大本用」



芸艸堂所蔵 板木

図版 二—一—二

『尾陽東壁堂製本客目録』板木「二丁 半紙本用」

図版 二二二一

『北齋臨畫』板木「二十三丁」

(『尾陽東壁堂製本畧目録』「二丁 大本用」)

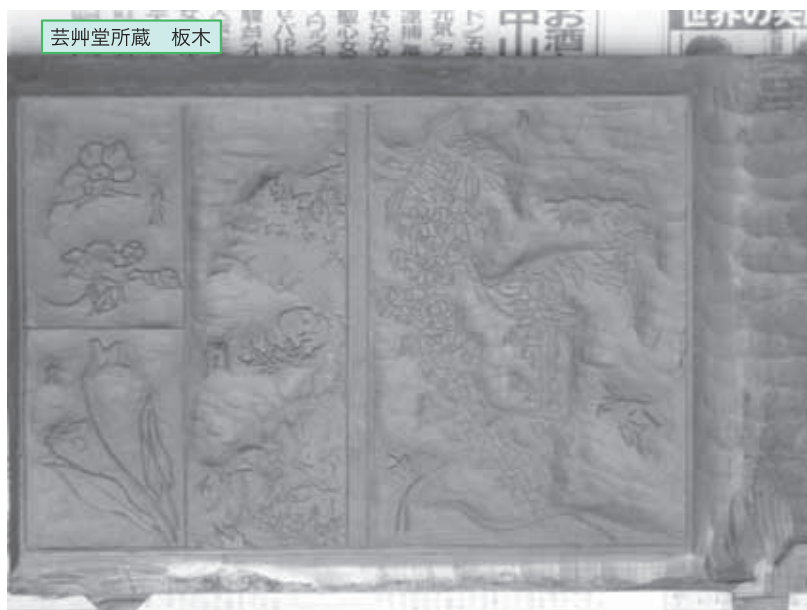


芸艸堂所蔵 板木

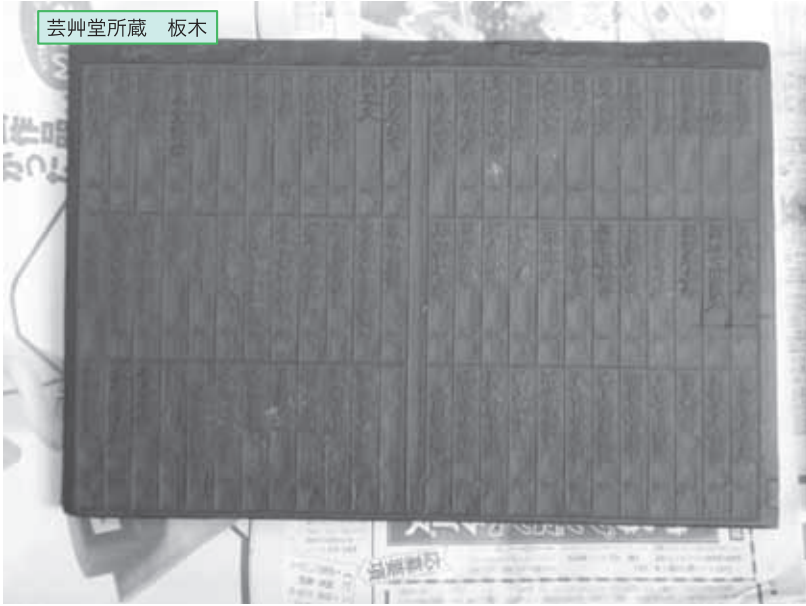
図版 二二二二

『北齋臨畫』板木「二十七丁」

(『尾陽東壁堂製本畧目録』「二丁 半紙本用」)

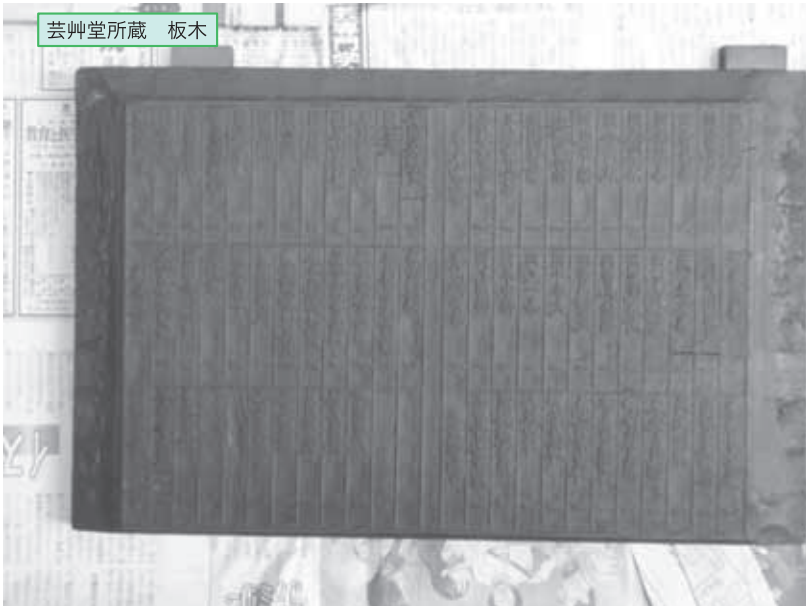


芸艸堂所蔵 板木



図版 三—一—一

『尾陽東壁堂製本客目録』板木「三丁 大本用」



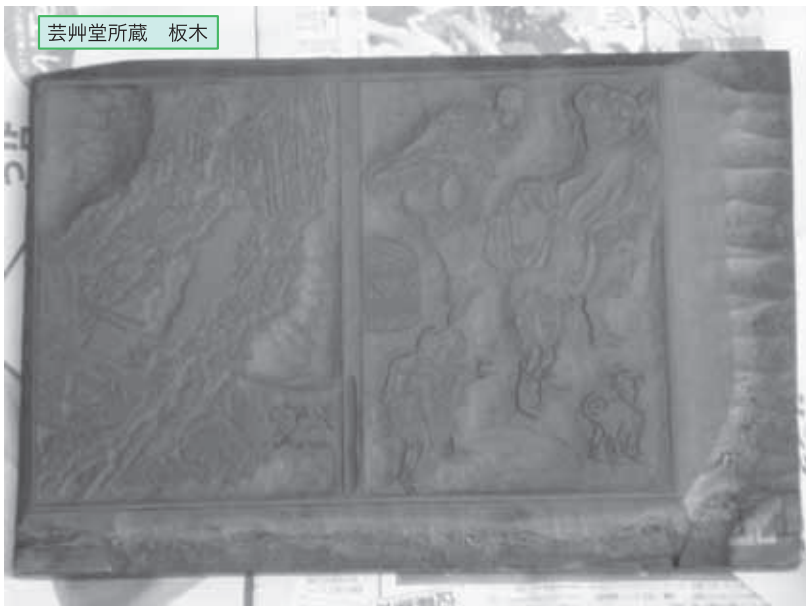
図版 三—一—二

『尾陽東壁堂製本客目録』板木「三丁 半紙本用」

図版 三—二—一

『北齋臨畫』板木「三丁」

(『尾陽東壁堂製本畧目録』「三丁 大本用」)



芸艸堂所蔵 板木

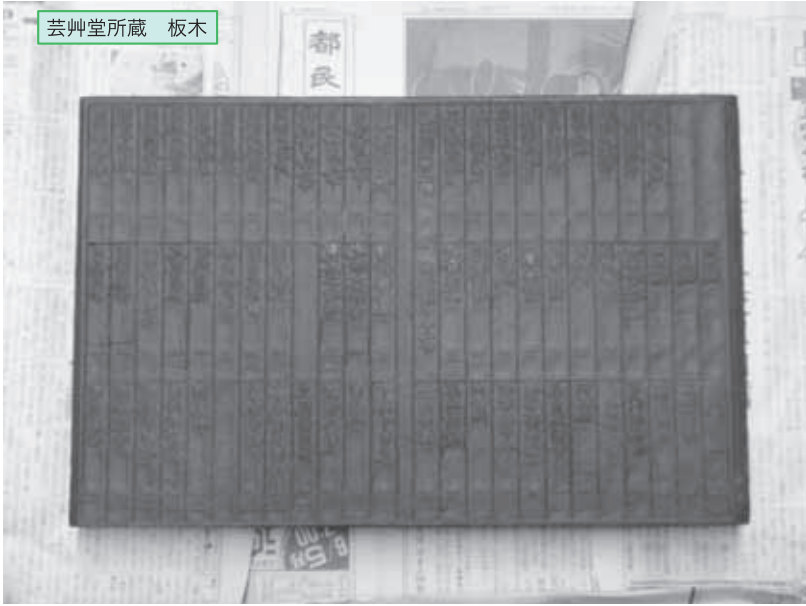
図版 三—二—二

『北齋臨畫』板木「二十九丁」

(『尾陽東壁堂製本畧目録』「三丁 半紙本用」)



芸艸堂所蔵 板木



図版 四—一—一
『尾陽東壁堂製本客目録』板木「四丁 大本用」



図版 四—一—二
『尾陽東壁堂製本客目録』板木「四丁 半紙本用」

図版 四—二—一

『北齋臨畫』板木「二十丁」

(『尾陽東壁堂製本畧目録』「四丁 大本用」)



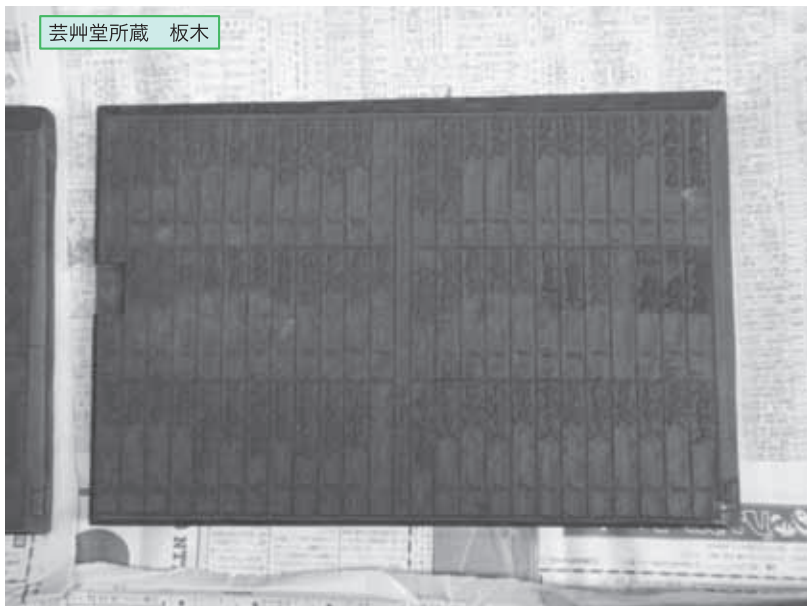
図版 四—二—二

『北齋臨畫』板木「二十八丁」

(『尾陽東壁堂製本畧目録』「四丁 半紙本用」)



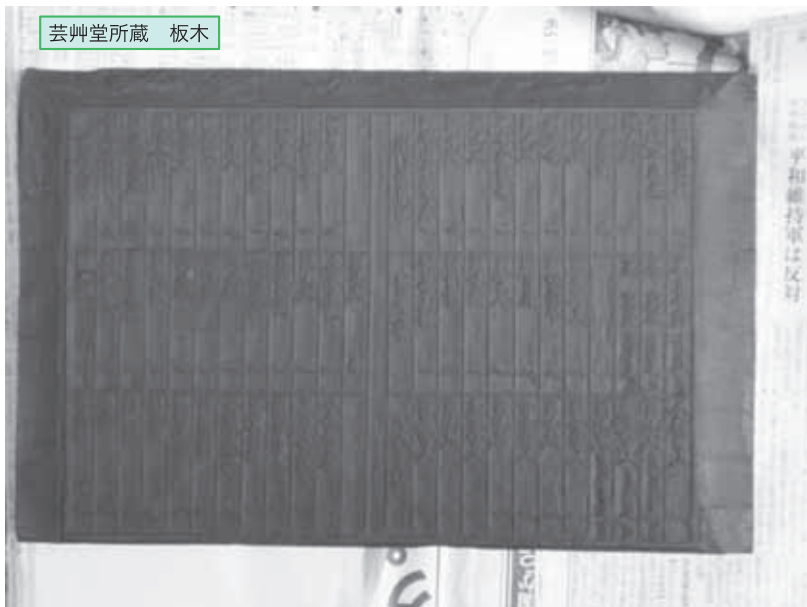
芸艸堂所蔵 板木



図版 五—一—一

『尾陽東壁堂製本客目録』板木「五丁 大本用」

芸艸堂所蔵 板木



図版 五—一—二

『尾陽東壁堂製本客目録』「五丁 半紙本用」

『北齋臨畫』板木「十八丁」

(『尾陽東壁堂製本畧目録』「五丁 大本用」)



芸艸堂所蔵 板木

『北齋臨畫』板木「八丁」

(『尾陽東壁堂製本畧目録』「五丁 半紙本用」)

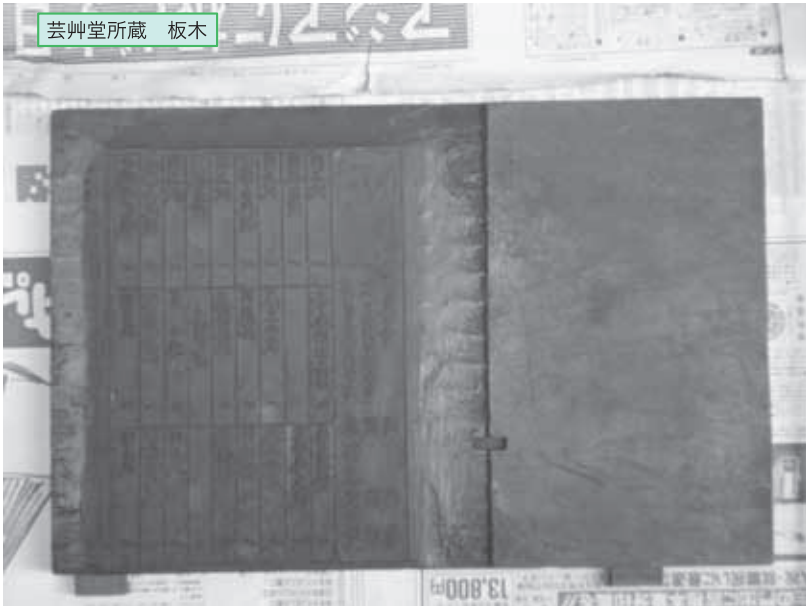


芸艸堂所蔵 板木



芸艸堂所蔵 板木

図版 六―一―一
『尾陽東壁堂製本客目録』板木「六丁 大本用」



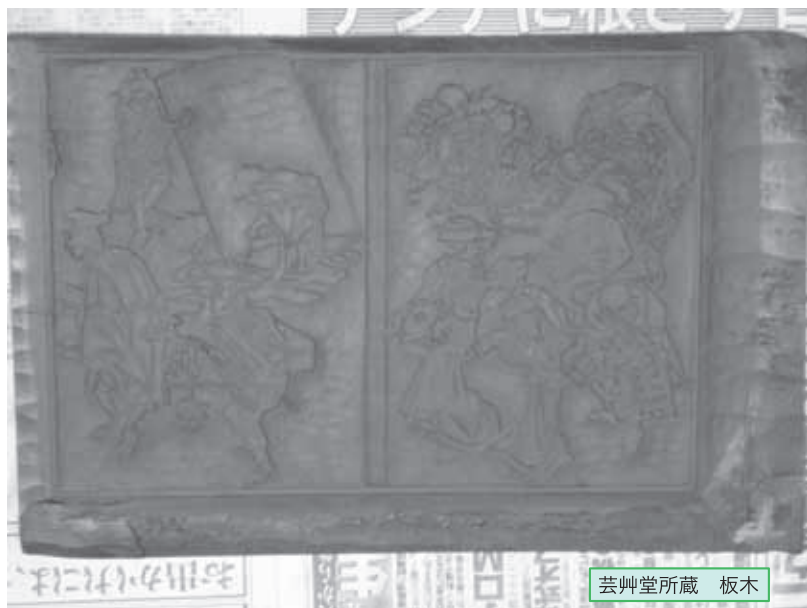
芸艸堂所蔵 板木

図版 六―一―二
『尾陽東壁堂製本客目録』板木「六丁 半紙本用」

図版 六一二一

『北齋臨畫』板木「四丁」

(『尾陽東壁堂製本畧目録』「六丁 大本用」)

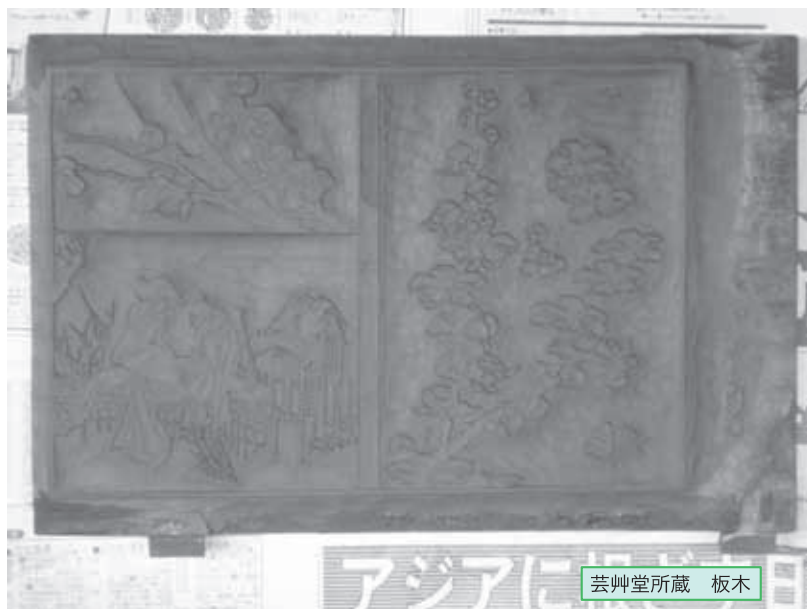


芸艸堂所蔵 板木

図版 六一二二

『北齋臨畫』板木「二十一丁」

(『尾陽東壁堂製本畧目録』「六丁 半紙本用」)



芸艸堂所蔵 板木

『尾陽東壁堂製本署目録』(大本用)			『東壁堂藏版目録 全文』	『名古屋縣管内藏板箇所 取調書』明治五年(1872)	『明治十四年七月 訂正東壁堂製本目 録』(1881)	備考		
古書之部	書名	冊数	価格	冊数	出版許可年	冊数	記載の有無	冊数
1	古事記傳	48	220匁(10+2・10)	47	天明8年官許	48	○	48
2a	唐(唐)朝録(詔)詞解	6					○	5
2	唐(唐)朝録(詔)詞解	6	24匁	6				
3	神代正語	3	7匁2分	3	寛政元年官許	3	○	3
4	神壽後釋	2	6匁	2	寛政8年官許	2	○	2
5	直思靈	1			官許年月不詳	1	○	1
6	萬我の比禮	1			寛政元年官許	1	○	1
7	葛花	2	6匁8分	2	寛政元年官許	2	○	2
8	三大考	1			官許年月不詳	1	○	1
9	冠位通考	1	2匁8分	1	文化3年官許	1	○	1
10	萬葉集畧解	30	120匁	30	寛政10年官許	32	○	32
11	古今集遠鏡	6	20匁	6	寛政9年官許	6	○	6
12	後撰集新抄	18	○	9	文化9年官許	15	○	15
13	後撰集別記	1	1匁6分					
14	新古今集抄	5			官許年月不詳	6	○	6
15	美濃の家包	5	17匁	5			○	
16	美濃の家苞折添	3	8匁	3	寛政7年官許	8	○	8
17	尾張の家つと	9	22匁(12+10)	9	文政2年官許	9	○	9
18	源氏物語手枕	1	1匁4分	1	寛政7年官許	1	○	1
19	三代調類題	6			文政5年官許	6	○	6
20	伊勢物語	2	1匁8分	2	官許年月不詳	2	○	2
21	玉勝間	15	43匁	15	寛政7年官許	15	○	15
22b	玉ひげ	1	2匁	1				
22	つれづれ草	2			官許年月不詳	2	○	2
23	ますみの鏡	2			文政7年官許	2	○	2
24	江戸職人歌合	2	4匁	2	文化5年官許	2	○	2
25	御遷幸(行)長歌	1	1匁4分	1	寛政7年官許	1	○	1折
26	八日の日記	1			天保3年官許	1	○	1

『尾陽東壁堂製本署目録』(大本用)			『東壁堂蔵版目録 政五年(1822)秋	『文 全』	『名古屋縣管内蔵板箇所 取調書』明治五年(1872)	『明治十四年七月 訂正東壁堂製本目 録』(1881)	備考
書名	冊数	価格	冊数	出版許可年	冊数	記載の有無	冊数
地名字音轉用例	1 2刃		1	寛政12年官許	1	○	1
天祖都城辨難	1 2刃		1	寛政9年官許	1	○	1
和歌五百題	2						
花のしがらみ	1			(虫損)官許	1	○	1
経書之部							
羣書治要	47	金1盾(不明(2刃&6、1は2朱))	47				
四書集註道善点	10 20刃		10	[官許年月不詳]	10	○	10
同上紙	10 ○		—	—	—	—	—
四書集註片假名附	4 3刃6分		4	文化9年官許	5	○	4
文選李善註	10 32刃		10	官許年月不詳	10	○	10
毛詩國字辨	10			安永4年官許	10	○	10
孝經指解	1 8分		1	文政5年官許	1	○	1
服膺孝語	1 刃2分		1	文政5年官許	1	○	1
國語定本	6 24刃、上紙28刃		6	文化5年官許	1	○	1
莊子因	6 20刃、上紙24刃		6				
劉向說苑	5 12刃		5	官許年月不詳	5	○	5
劉向說苑考	1 2刃6分		2	寛政10年官許	1	○	1
劉向說苑參(業)註	6 23刃		10	寛政5年官許	10	○	10
同上紙	10		—	—	—	—	—
劉向列仙傳	1 1刃6分		1	官許年月不詳	1	○	1
韓文起	10 ○		6	文政9年官許	10	○	10
今世説	1 二冊 3刃		2	文政8年官許	1	○	4
世説音釈	5 12刃		5	官許年月不詳	10	○	10
左傳(氏)業求	2 6刃8分		2	官許年月不詳	2	○	2
星渚堂新問	1 1刃2分		1	(虫損)			
大學參解	1 1刃4分		1	(虫損)		大學簡解	1
論語參解	5 ○		—	天保(虫損)			
明季遺聞	4 10刃		4				

『尾陽東壁堂數本署日録』(大本用)			『東壁堂載版目録 全文』 政五年(1822)秋	『名古屋縣管内蔵板箇所 取調書』明治五年(1872)	『明治十四年七月 訂正東壁堂數本目 録』(1881)	備考
冊数	価格	冊数	出版許可年	冊数	記載の有無	冊数
54	牧民忠告解	1冊 2匁8分	2		○	1
55	女いまじめ	1匁4分	1	官許年月不詳	○	1
56	傳子	1	1	文政4年官許	○	1
57	常語藪	2匁4分8分	2	[寛政]七年官許	○	2
58	物數稱謂	1匁2分	1	官許年月不詳	○	1
59	律數擲推	2冊 4匁	1	享和3年官許	○	1
60	介翁茶史	2	2	享和3年官許	○	2
61	六諭衍義大意抄	2		官許年月不詳	○	1
	(空白)					
詩集之部						
62	三野風雅	5〇	5	天保9年官許		
63	鶴園詠物語	1匁2匁4分	1	寛政10年官許	○	1
64	日下新詠	1匁2分	1	官許年月不詳	○	1
65	晴髮偶詠	1匁8分	2	官許年月不詳	○	2
66	晴人詠	1匁2分	1	寛政8年官許	○	1
67	先友詩抄	1匁2匁8分	2	寛政8年官許	○	2
68	寒林酬余	1匁2分	1	官許年月不詳	○	1
69	金山稿	1〇	2	官許年月不詳	○	2
70	宋詩合璧	1匁2分	1			
71	清百家絶句	3匁4匁4分	3			
72	馨求權題詠	1			○	1
73	金(錦)城白湯集	1〇	2	文政6年官許	○	1
74	日本詠物語	3匁8分	3	安永6年官許	○	3
俳書之部						
75	枇杷園録句集	2匁3匁8分	2		○	4
76	同後篇	2匁3匁8分	2	文政9年官許		
77	枇杷園類題録句集	2		文政9年官許	○	2
78	枇杷園三日月集	1匁2匁	1			
79	枇杷園風月集	1匁2匁2分	1			

『尾陽東壁堂製本署目録』(大本用)			『東壁堂蔵版目録 全』文 政五年(1822)秋	『名古屋縣管内蔵板箇所 取調書』明治五年(1872)	『明治十四年七月 訂正東壁堂製本目 録』(1881)	備考
冊数	価格	冊数	出版許可年	冊数	記載の有無	冊数
80	批把園雀芝集	5 5匁5分	5 官許年月不詳	1	○	1
81	批把園五七集	5	□□6年官許	5	○	5
82	批把園蕉の眼	1 1匁2分				
83	批把園瓢日記	1 1匁				
84	批把園葎の犬	1 2匁4分				
85	批把園法々花經	1 2匁				
86	批把園隨筆	1 2匁3分				
87	批把園七部集 小本	2 合本4冊 8匁5分		4		
88	同二編	2				
89	同三編	2				
90	同四編	2				
91	同五編	2				
92	也有翁雜衣 合本	4				
93	也有翁雜衣前編	3 4匁		3		
94	同後編	3 4匁		3		
95	同續編	3 ○		3		
96	同拾遺	3 ○		3		
97a	評語百人一言	1				
97	評語無名集	1				
醫書之部						
98	積聚編	1 1匁		1		
99	備考方	3 4匁5分		3	官許年月不詳	4
100	提耳談	5 10匁8分		5	官許年月不詳	5
101	溫衾論	1 小本2匁8分、薄用5匁		1	享和6年官許	1
102	藥品考	1 3匁		1	文化8年官許	1
103	古方通覽	1 3匁		1		
104	方書摘要	5 ○		5	官許年月不詳	5
105	經穴秘授	1 3匁		1	享和元年官許	1
106	醫事古言	1 2匁8分		1	文化4年官許	1

『尾陽東壁堂製本署目録』(大本用)		『東壁堂應版目録 全』文政五年(1822)秋	『名古屋縣管内葺板館所取調書』明治五年(1872)	『明治十四年七月訂正東壁堂製本目録』(1891)	備考		
書名	冊数	価格	冊数	出版許可年	冊数	記載の有無	冊数
107	此方摘要	12匁8分	1	文化5年官許	1	○	1
108	の治療方	12匁8分	1				
109	物品識名	2匁5匁2分	2	文化6年官許	4	○	4
110	物品識名拾遺	2					
111	蘭藥鏡原	3内三 7匁2分	3	官許年月不詳			
112	醫生堂雜誌	1		官許年月不詳	1	○	1
113	内外要方	4内三 8匁	3				
114	同二編	2					
115	同三編	2		文政5年官許	12	和蘭内外要方	12
116	同四編	4					
117	傷寒論特解	6匁16匁	6	寛政3年官許	7	○	7
118	宋板傷寒論	3 <small>3匁4分2厘、上編7匁2分5厘、中編5匁9分</small>	3				
119	宋板傷寒論正文	1○	1	(虫損)	1	○	1
120	本朝水種方	1		官許年月不詳	1	○	1
121	醫家千字文	12匁8分	1	官許年月不詳	1	○	1
122	痘疹炒藥集	1					
123	炒藥手引草	1匁2分	1	天明3年官許	1	○	1
124d	易書之部						
124	松月堂百瓶	3		官許年月不詳	3	○	3
125d	増補卜筮旨筮	19分	—	官許年月不詳	1		3 <small>(形)弘化2・3年序跋</small>
125	乗穂録	4匁4匁(2+2)	—	寛政7年官許	4		
126d	増補卜筮旨筮文政再版	1匁	—			○	1
126	煉物出所	1		官許年月不詳	1	○	1
127d	卜筮旨筮増續	2匁2匁6分	2				
127	彼此合府(符)	2匁2匁	3	寛政7年官許	2	○	2
128d	上筮大全	3匁3匁2分	3	官許年月不詳	1	○	1
128	年中醫講義	1					
129d	卜筮極秘	2匁2匁6分	2	文政5年官許	1	○	1
129	女今川貞操鑑	1○	2				

『尾陽東壁堂製本書目録』(大木用)		『東壁堂藏版目録 全』文 政五年(1822)秋	『名古屋縣管内藏板箇所 取調書』明治五年(1872)	『明治十四年七月 訂正東壁堂製本目 録』(1881)	備考
書名	冊数	価格	冊数	記載の有無	冊数
130d	上筮卦象解	18分	1		
130	婦女用文章	1	1	○	1
131	易道早合点	13分	1	○	1
132	人相早合点	1	1	○	1
佛書之部					
133	釈迦應化畧諺解	12枚8分	1	○	1
134	宗門畧列祖傳	410枚	4	○	4
135	奎斯幾	1枚6分	1	○	1
136	閑居忘草	22冊(上中)1枚6分	2	○	2
137	圓寂孫磨訣	12枚4分	2	○	2
138	圓光大師御傳略贊	2〇	2		
139	永平道元行狀圖	212枚	2	○	2枚
140	觀音施無畏圖	1	1	○	1枚
141	現生護念之圖	1枚次5分	1		
142	菩薩戒童子蒙談抄	11枚2分	1	○	1
143	唐土談話	1		○	1
144c	冢田物				
144d	(空白)				
144	大日本國郡全圖	2		○	2
145d	家註周易	48枚	4		
145	大日本國郡全圖彩色摺箱入	2	—	—	—
146d	家註周易正文	29枚2分	2	○	1枚
146	美濃國全圖	1		○	
147d	家註毛詩	1018枚	5		
147	三河國全圖	1		○	1枚
148d	家註毛詩正文	36枚	3		
148	永樂古狀揃	1		○	1
149d	家註六記	68枚	6		
149	同上紙	1			

『尾陽東壁堂製本畧目録』(大本用)			『東壁堂藏版目録 全』文 政五年(1822)秋	『名古屋縣管内藏版箇所 取調書』明治五年(1872)	『明治十四年七月 訂正東壁堂製本目 録』(1881)	備考	
書名	冊数	価格	冊数	出版許可年	冊数	記載の有無	冊数
150d 家註老子	2	2匁8分	2				
150 永樂古状揃假名附	1			天明6年官許	1	○	1
151d 左傳増註	15	36匁	15				
151 同上紙	1						
152d 孟子断	2	4匁4分	2				
152 初學古状揃	1						
153d 屋鋪行	1	1匁6分	1				
153 同上紙	1						
154d 作詩質的	1	2匁7分	1				
154 初學古状揃假名附	1						
155d 江尾往還錄	2	○	2				
155 同上紙	1						
156 論語群疑考	10						
157d 大孝文集	7						
157 延壽養生談	1			官許年月不明	1	○	1
158d 澹川談	1						
158 養生要論	1			天保(不明)	2	○	2
d 隨意録	1						
d (空白)							
天文曆學之部							
159 天文中星風雨考	1	4分8	1	官許年月不詳	1	○	1枚
160 天文候鑑	1	○	1	官許年月不詳	1	○	1
161 日用曆談	1	1匁6分	1				
162 觀象圖說	3						
163 晴雨管規	1	1匁	1	官許年月不詳	1	○	1
164 晴雨考 年々出版	1			官許年月不詳	1		
(空白)							
手本物之部							
165 長雄書札集	1	1匁5分	1	官許年月不詳	1帖		

『尾陽東壁堂製本畧目録』(大本用)		『東壁堂藏版目録 全』文 政五年(1822秋)	『名古屋縣管内藏板箇所 取調書』明治五年(1872)	『明治十四年七月 訂正東壁堂製本目 録』(1881)	備考	
冊数	価格	冊数	出版許可年	冊数	記載の有無	冊数
166	長松貴札帖	1 2刃	1 官許年月不詳	1 1帖	○	1
167	空洞書翰	1 1刃	1 官許年月不詳		○	1
168	大橋遣帖	1	官許年月不詳	1	○	1
169	大橋改年帖	1 2刃2分	1 官許年月不詳	1	○	1
170	大橋今川状	1 2刃	1 官許年月不詳	1	○	1
171	大橋池凍帖	1 2刃4分	1 官許年月不詳	1		1
172	大橋書用集	1 2刃6分	1 官許年月不詳	1	書用帖	1
173	大橋當用集	1 1刃8分	1 官許年月不詳	1	○	1
174	大橋書札集	1 2刃8分	1 官許年月不詳	1	○	1
175	大橋新消息	1 2刃3分	1 官許年月不詳	1	○	1
176	大橋初學手本	1 2刃2分	1 官許年月不詳	1	○	1
177	大橋かむ手本	1 1刃8分	1 官許年月不詳	1	○	1
178	大橋庭訓往来	1 4刃8分	2			
179	大橋風月往来	1 2刃	1 官許年月不詳	1	○	1
180	大橋明衡往来	1 1刃6分	1 官許年月不詳	1	○	1
181	大橋商賈往来	1 2刃	1 官許年月不詳	1	○	1
182	大橋江戸往来	1	官許年月不詳	1	○	1
183	大橋江戸名所	1	官許年月不詳	1	○	1
184	御家書札文海	1 3刃5分	1 文化2年官許	1	○	1折
185	御家當時用文章	1	文化13年官許	1	○	1
186	御家永代用文章	1	官許年月不詳	1	○	1
187	御家速千字文	1 2刃5分	1 官許年月不詳	1	○	1
188	猿山詩歌帖	1	官許年月不詳	1	○	1
189	猿山乞巧帖	1	官許年月不詳	1	○	1
190	猿山年中帖	1	官許年月不詳	1	○	1
191	猿山尺一集	1	官許年月不詳	1	○	1
192	猿山千字文	1	官許年月不詳	1	○	1
193	猿山書通案文	1 2刃5分、上紙3刃	1 官許年月不詳	1	○	1
194	猿山書札法帖	1	官許年月不詳	1	書札帖	1

『尾陽東壁堂製本署目録』(大本用)			『東壁堂藏版目録 全』文 取五年(1822)秋	『名古屋縣管内藏板箇所 取圖書』明治五年(1872)	『明治十四年七月 訂正東壁堂製本目 録』(1881)	備考	
書名	冊数	価格	冊数	出版許可年	冊数	記載の有無	冊数
195	猿山鳴暎名所	1		官許年月不詳	1	○	1
196	猿山四季かた文	1		官許年月不詳	1	○	1
197	猿山四季文集	1		官許年月不詳	1	○	1
198	猿山江戸川用文	1		官許年月不詳	1	○	1
199	猿山筆用集	1		官許年月不詳	1	筆用帖	1
200	猿山私用集	1		官許年月不詳	1	私用帖	1
201	猿山清風帖	1		官許年月不詳	1	○	1
202	二節詩歌(備)英	1		二節詩歌 文政5年官許	1	二節詩歌	1
203	定家朗詠	2 4匁					
204	行成朗詠	2 4匁		官許年月不詳	1帖	和漢朗詠	1
205	孝曲桃の宴	1 5分6					
206	筆曲大雲抄	6 24匁					
207	筆曲二ツ輸入 (空白)	6 30匁					
208a	武家俗詠弁	3					
208	煎茶早指南	1		享和3年官許	1	○	1
209b	(空白)						
209	永樂大雜書	1 △		1			
210	神術極秘巻	1 8分		2			
正面摺之部							
211	王由敦寸珍考經	1 9匁		官許年月不詳	1	○	1帖
212	漢魏講書帖	1 4匁5分		官許年月不詳	1	○	1帖
213	九疑山碑	1 2匁5分		官許年月不詳	1	○	1帖
214	郭有道碑	1 4匁5分		官許年月不詳	1帖	○	1帖
215	羲之周府君碑	1 5匁		官許年月不詳	1帖	○	1帖
216	李邕沙羅樹碑	1 9匁5分		官許年月不詳	1	○	1帖
217	渤海藤原真帖	1 5匁		官許年月不詳	1	○	1帖
218	東坡自我帖	1 3匁		官許年月不詳	1	○	1帖
219	東坡大江帖	1 4匁8分		官許年月不詳	1	○	1帖

『尾陽東壁堂製本畧目録』(大本用)			『東壁堂藏版目録 全』文政五年(1822)秋	『名古屋縣管内藏版箇所取調書』明治五年(1872)	『明治十四年七月訂正東壁堂製本目録』(1881)	備考	
書名	冊数	価格	冊数	出版許可年	冊数	記載の有無	冊数
220	東坡備去來詩帖	1 3宛2分	1	官許年月不詳	1帖	○	1帖
221	蕙其昌天馬跋	1 35宛	4	官許年月不詳	1帖	○	1帖
222	蕙其昌衆鳥帖	1	1	官許年月不詳	1帖	○	1帖
223	蕙其昌絳帳帖	1	1	官許年月不詳	1帖	○	1帖
224	逆風草書帖	1 ○	—	官許年月不詳	1	○	1帖
225	信海三十六歌仙	1 3宛8分	1	官許年月不詳	1	○	1帖
226	陋室銘 (空白)	1 3宛4分	1	官許年月不詳	1帖		
227	草木性譜	2					
228	草木有毒圖說	2					
229	立花當用集	1 1宛2分	1	官許年月不詳	3	○	1
230	諸禮大學	1		官許年月不詳	1		
231	同上紙	1		—	—		
232	十隸千字文	1 ○	—	官許年月不詳	1枚	○	1
石刻法帖之部							
233	夫子廟堂碑	1 2宛	1	官許年月不詳	1帖	○	1帖
234	朱子風雪帖	1 1宛8分	1	官許年月不詳	1帖		
235	宋七君子法帖	1 ○	1	官許年月不詳	1帖		
236	歐陽詢九成宮	1 1宛8分	1	官許年月不詳	1帖		
237	子昂要壑帖	1 1宛2分	1	官許年月不詳	1帖	○	1帖
238	子昂羊公帖	1 ○	1	官許年月不詳	1帖	○	1帖
239	伯來天冠帖	1 1宛8分	1	官許年月不詳	1帖	○	1帖
240	虞澤樂得帖	1 ○	—	官許年月不詳	1帖	○	1帖
241	米元章天馬跋	1 5宛5分	1			○	1帖

『尾陽東壁堂製本畧目録』(大本用)		『東壁堂藏版目録 全』文政五年(1822)秋		『名古屋縣管内蔵板箇所取調書』明治五年(1872)		『明治十四年七月訂正東壁堂製本目録』(1881)		備考
書名	冊数	価格	冊数	出版許可年	冊数	記載の有無	冊数	
		(空白)						
		(空白)						
繪本之部								
242	繪本聊山科	2 3両4分	5					
243	繪本陸訓往来	3		文政10年官許	1	○	1	
244	繪本女今川	1		天保7年官許	1	○	1	
245	繪本女今川彩色入	1		—	—	—	—	
246	繪本大江山	1 9分	1	天保7年官許	1	○	2	
247	繪本大江山彩色入	2 2両	2	—	—	—	—	
248	繪本曾我物語	1 9分	1	天保7年官許	1	○	2	
249	繪本曾我物語彩色入	2 2両	2	—	—	—	—	
250	繪本隊分勇者	1 9両	1	天保7年官許	1	○	2	
251	繪本隊分勇者彩色入	2 (2両)	—	—	—	—	—	
	(空白)							
画譜繪手本之部								
252	北齋漫画	12一~十編 各2両8分	10	文化2年官許	14	○	15	
253	北齋画譜	3		天保4年官許	3	○	3	
254	同上紙	1				—	—	
255	一筆画譜	1		文政7年官許	1	○	1	
256	而筆画譜	1						
257	同上紙	1						
258	英勇画譜	1				○	1	
259b	道中国画譜	1						
259	押手行燈	1		文政12年官許	5	○	5	
260b	浮世画譜	1		天保6年官許	3	○	3	
260	同上編	1		*		*		
261b	同上紙	1		—	—	—	—	
261	同上編	1		*		*		

『尾陽東壁堂製本署目録』(大本用)		『東壁堂藏版目録 全』文 版五年(1822)枚		『名古屋縣管内藏板箇所 取調書』明治五年(1872)		『明治十四年七月 訂正東壁堂製本目 録』(1881)		備考
書名	冊数	価格	冊数	出版許可年	冊数	記載の有無	冊数	
262b	同上編		1	—	—	*		
262	同四編		1	*		*		
263b	同上紙		1	—	—	—	—	
263	同(五編)		1	*		*		
264	珠林漫画	1 2枚	1	文化14年官許	1	光琳漫画		
265	叢齋麈画	1 3枚8分	1					
266	同二編		1					
267	同三編		1	天保6年官許	5	○	5	
268	同四編		1					
269	同五編		1					
270	北溪漫画		1	文政13年官許	1			
271	北臺漫画		1	天保6年官許	1			
272	同上紙		11	—	—			
273	文鳳麈画	1 2枚7分	1	寛政12年官許	1	○	1	
274	同上紙		1	—	—	—	—	
275	金氏画譜	1 3枚、薄用摺 4枚	1	官許年月不詳	1	○	1	
276b	神筆行燈		1	文政12年官許	5	○	5	
276	浮世画譜		1	天保6年官許	3	○	3	
277b	同上編		1	*		*		
277	同二編		1	*		*		
278	初學画手本		1					
279	福善齋画譜	5 9枚5分、箱入10枚8分	5	天明元年官許	5	○	2帖	
280	武勇魁圖會		1	天保9年官許	2	○	2	1838
281	同二編		1					
筆法之部								
282b	本朝筆態	3 ○	3					
282	早引相帳(場)帳		1	天保6年官許	1	早見相帳帳	1	
283	開式新法		2	2 5枚	2			
284	玉精通考		3 4枚	3 寛政7年官許	3	○	—	

『尾陽東壁堂製本畧目録』(大木用)			『東壁堂蔵版目録 全』文政五年(1822)秋	『名古屋縣管内蔵板箇所取調書』明治五年(1872)	『明治十四年七月訂正東壁堂製本目録』(1881)	備考	
書名	冊数	価格	冊数	出版許可年	冊数	記載の有無	冊数
285 點鼠指南録	3	5匁	3				1
286 同二編	3	5匁	3				
287 同三編	3	〇	3	文化12年官許		〇	
288 同四編	3				15		
289 同五編	3						
290 周髀算經圖解	5	7匁	5	寛政7年官許	5	〇	1
291 周髀算經圖字解	2	4匁	2	文政3年官許	2	〇	1
292 算法工夫之錦	3	3匁6分	3	寛政7年官許	3		
293 差法發隱録	1	1匁5分	1	嘉永5年官許	2		1852
294 關運ちんごう記	1	4分	1	寛政10年官許	1	〇	1
295 萬室大通考	1	2匁8分	1	寛政5年官許	1		
296 八木龍之巻 (空白)	1	1匁6分	1				
字引節用之部							
297 滿字節用錦字選	1			寛政6年官許	1	滿字節用錦字箋	1
298 同中紙	1				1	—	1
299 同上紙	1				1	—	1
300 早字節用集	1						
301 同上紙	1						
302 早字節用集大全	1						
303 同上紙	1						
304 早字節用集眞字附	1						
305 同上紙	1						
306d 四聲節用集	1						
306 手紙早引集	1			官許年月不詳	1		
307d 同上紙	1						
307 手紙早引集増補再版	1						
308 手紙早引集	1						
309 永樂古状揃	1	8分	1			〇	1

『星陽東壁堂製本畧目録』(大本用)			『東壁堂藏版目録 全』文 政五年(1822)秋	『名古屋縣管内藏板箇所 取調書』明治五年(1872)	『明治十四年七月 訂正東壁堂製本 畧』(1881)	備考			
	書名	冊数	価格	冊数	出版許可年	冊数	記載の有無	冊数	
310	同上紙	1					—	—	
311	永樂古扶欄假名附	1	8分5	1			○	1	
312	同上紙	1					—	—	
313	初學古扶欄	1							
314	同上紙	1							
315	初學古扶欄假名附	1							
316	同上紙	1							
将棋之部									
317	将棋道標	1	5両5分	1	文化13年官許	1	将棋通標	1	
318b	将棋親手	1	1両3分	1					
318	将棋權梯	2			文化13年官許	2	○	2	
319	将棋金襴	1	8分	1	文化13年官許	1	○	1	
320	将棋鷺狐	1	9分	1	文化13年官許	1	○	1	
321d	将棋定跡	2							
321	将棋自在	2			文化13年官許	2	○	2	
322d	将棋連珠	2	○	2	文化13年官許	1	○	1	
322	将棋指南車	2	7分	1	文化13年官許	1	○	1	
323	将棋名家(能友)	1	1両2分	1	文化13年官許	1	○	1	
d	将棋古今集	1	1両4分	1	文化13年官許	1	○	1	
	(空白)								
324d	将棋相掛集	2	○	2					
324	将棋奕範	2	○	2	天保6年官許	2	将棋奕範	2	
325d	将棋指南車	1	1分	1	文化13年官許	1			
325	将棋百番口	1	○	2	天保6年官許	2	将棋奕範	2	
326d	将棋百番口	1	8分	1	享和2年官許	2			
326	将立手談	1	1両2分	1	天□□年官許	1	○	1	
327	将立自在	2							
328	液世肝要記	2	2両	2					
329	同二編	2							

『尾陽東壁堂製本署目録』(大木用)			『實壁堂藏版目録 全』文政五年(1822)秋	『名古屋縣管内蔵板箇所取調書』明治五年(1872)	『明治十四年七月訂正東壁堂製本目録』(1881)	備考	
書名	冊数	価格	冊数	出版許可年	冊数	記載の有無	冊数
基經之部							
著經交範	2	〇	2	天保6年官許	2	〇	2
著經交筆	2	〇	2	天保6年官許	2	〇	2
著立手談	1	1匁2分	1	天□□年官許	1	〇	1
(空白)							
大日本國郡全國	2					〇	2
百人首之部							
樓鳳百人	1	〇	1			〇	1
同上紙	1					—	—
蓬萊百人	1	4匁	1	文政8年官許	1	〇	1
同上紙	1	〇	1			—	—
吾妻百人	1			文政8年官許	1	〇	1
同上紙	1					—	—
錦葉百人	1	〇	1	文政8年官許	1	〇	1
同上紙	1					〇	1
麗玉百人	1	8匁5分	1	文政8年官許	1	〇	1
同上紙	1	9匁5分	1			—	—
今様百人	1					〇	1
同上紙	1					〇	1
女今川貞操鑑	1			文政5年官許	1	〇	1
同上紙	1					—	—
(空白)							
兼種録	2	2匁	2			〇	4
同上編	2	2匁	2				
彼此合符	2	2匁	2			〇	2
延壽養生談	1					〇	1
養生要論	1					〇	2